令和１年（2019 年）度
かごしまの子どもたちが創った音楽
＜第 35 回鹿児島県児童生徒作曲コンクール＞

独立行政法人日本芸術文化振興会助成

公益財団法人鹿児島県文化振興財団助成

【開催要項】

１．**主　催**　特定非営利活動法人 鹿児島作曲協会

２．**後　援**　鹿児島県・鹿児島県教育委員会・鹿児島県音楽教育連盟・南日本新聞社・ＮＨＫ鹿児島放送局・ＭＢＣ南日本放送

３．**対　象**　鹿児島県下の小・中・高等学校及び特別支援学校等に在籍する児童・生徒

４．**審　査**　主催者の委嘱した審査員による審査

５．**表彰及び受賞作品演奏**

入賞及び入選者は、下記授賞式において表彰し、受賞作品演奏会で上位数曲を演奏する。その際、作曲協会において発表用に編曲することがある。
器楽作品については、演奏者を作曲者自身が準備すること。（自演も可）

【参加規程】

１．**部門及び課題**　声楽作品部門・第一器楽作品部門・第二器楽作品部門の３部門とし、器楽作品部門については次に示す通りである。

・第一器楽作品部門…単旋律のみ（例：リコーダー独奏，トランペット独奏　など）
・第二器楽作品部門…単旋律以外（例：ピアノ独奏，リコーダーアンサンブル　など）
※声楽作品は課題詩による
※器楽作品（第一器楽・第二器楽）の課題については、別記の動機によること。
※声楽作品・第一器楽作品・第二器楽作品のうち、２部門または３部門に参加してもよいが、１人１部門につき１曲とする。（合作は認めない）

２．**注 意 事 項**
（１）楽譜は、任意の五線紙を使用する。
（２）楽譜は、コピー・浄譜ソフトによるものでもよい
（３）「申込書」には、次のことを必ず明記すること。
曲名・使用楽器（器楽作品の場合）・学校名・学年・組・氏名（氏名にはふりがなを必ずつける）・本人の住所・電話番号・演奏時間（器楽作品の場合）
※上記の個人情報については、鹿児島県児童生徒作曲コンクール以外の目的で使用することはありません。
（４）申込書と楽譜は、必ずホッチキスで止めること。
（５）声楽作品の詩は、原則として全部を用いることとする。（部分的なことばの反復や合唱・重唱の場合のパートによる部分的な省略は差しつかえない。）
（６）声楽作品の楽譜には、２番以降の歌詞も書き入れること。
※歌詞が書ききれない場合は、五線の上に書いても構いません。
（７）器楽作品の動機は、楽器等の事情により移調して用いてもよい。
（８）自作の作品であること。

３．**作品提出先**　〒８９９－５２２２　鹿児島県姶良市加治木町錦江町２４番地　伊地知方
鹿児島作曲協会事務局　　℡０９０－７５３２－８１８３
４．**作品受付期間**　２０１９年6月２８日（金）～8月２８日（水）　※当日消印有効
５．**審査結果発表**　２０１９年9月下旬
６．**表彰・演奏会**　２０１９年１１月３０日（土）１３：３０～
鹿児島市勤労者交流センター　多目的ホール（よかセンター）

【声楽作品の部】

次の課題詩 A～E を歌詞とした声楽作品を創りましょう。

A　びわの唄（うた）　　＜東　光恵＞

だあれも　しらない　かぜの中（なか）
わたしは　しってる　かぜの中（なか）
やがて　おひさま　わらうころ
やさしい　あまい　実（み）がなって
ころころ　きんいろ　実（み）がなって
しあわせの唄（うた）　うたうでしょう

だから　わたしは　かぜの中（なか）
花（はな）を　さかせる　　かぜの中（なか）
だあれも　見（み）てない　花（はな）だけど
だあれも　ほめない　花（はな）だけど

B　子猫のワルツ　　＜小村　忍＞

１　はなげを立てて　ピンとのばし
さぁー　おどりましょう
にゃん　にゃん　にゃん

２　しっぽを立てて　すこしきどって
さぁー　おどりましょう
にゃん　にゃん　にゃん

３　お手手をのばし　こしにまわして
さぁー　かろやかに
アン　ドゥ　トロワ

４　足どりかるく　小さくホップ
いっしょにまわって
おどりましょう

楽しい　楽しい　子猫のワルツ

C　空なぜ青く　海なぜ碧い　　＜有光　あきら＞

空なぜ青く　海なぜ碧い
なぜ青い　　なぜ碧い
きょうも生まれた　たくさんの
悲しみ　苦しみ　抱きながら

空は　海は　喜びの花
人の心に　咲かせてくれる
魔法の青は　父さんのよう
優しい碧は　母さんのよう

われら新しき　令和（じだい）の子
あの空のように　あの海のように
人の心に　大輪の
喜びの花　咲かせたい　咲かせたい

D　マッチ　マッチ　アッチッチ　　＜高崎　乃理子＞

1マッチ　マッチ　アッチッチ
おさるが　マッチで　　アッチッチ
いたずらしたから　アッチッチ

2　マッチ　マッチ　モエチッチ
かれはで　たき火よ　モエチッチ
おいもがやけたよ　アッチッチ

E　道にただ　　＜島津日新公・いろは歌※＞

道にただ　身をば捨（ん）てむと思（い）ひとれ
かならず天の　助けあるべし

訳
≪人の道を全うするためにわが身をなげうつ覚悟で事に当たりなさい、そうすれば必ず天の助けがある　正しい道を歩むときどんな困難も解決される≫

※島津日新公いろは歌（薩摩いろは歌）：
薩摩の戦国武将日新公（=　島津忠良　1492～1568）による 47 首の短歌は、郷中教育（薩摩藩伝統の縦割り教育）の基本精神を説いたものであり、ひきつづき西郷隆盛・大久保利通など鹿児島の歴史を牽引していった人物もこの教えの影響を強く受けた。